

保育ネットワーク

豊かな自然のなかで 子どもたちを育む

兵庫県南部に位置し、瀬戸内海国立公園の一部を含む相生市は、海も山もある風光明媚な地域です。山側の高台に建つ認定こども園どんぐりの家は、昭和43年同市に乳児保育所として開設し、平成20年から3～5歳児保育を開始。平成26年に認定こども園に、平成28年に幼保連携型認定こども園に移行しました。平成31年には敷地内に乳児棟を新築し、現在0～5歳までの子どもたち108名が元気に過ごしています。

【カテゴリーI】「子どもの育ちを保障する」

① 質の高い保育について研究をすすめ、実践につなげます。 ※

子どもの成長課題を研究し 達成に向けた取り組みを実践

保育理念は「生きる力と強い心を育む」。「理念につながる保育方針として、『子どもにとって最大の保育環境は保育士自身である』をモットーに、『個々の可能性を見出し、良い芽を伸ばします』『環境・自然に感動し感性豊かな我慢強い子を育てます』『食べることを根本に健康な身体作りをめざします』の3点を掲げています」と渡邊慎治園長。

子どもたちが成長していくうえでの課題には、「体力向上」「自立心」「協同性」「言葉による伝え合い」の4つを挙げています。「体力向上のためには、外部講師による体操教室を実施しています。教室では体幹をつかさどるためのサーキットや器械運動を2歳から行います。子どもたちは体幹が



渡邊慎治園長

しっかりしてきて、5歳では組体操ができるまでになります」と荻原尚子副園長兼主幹教諭。「楽しくてけじめのある体操教室の指導は、保育者にとっても勉強になります」と笑顔で話します。

「自立心」は、自分で考え行動することです。保育者が声かけを続けてきた成果として、1歳児くらいから「おしっこが出た」と自分

社会福祉法人後楽園
認定こども園どんぐりの家
(兵庫県相生市)

でおむつを持ってきます。また室内で制作などの遊びをしますが、はじめから道具などを設置せず、普段は片づけてあります。月曜日に自分がやりたいものを選んで遊び、金曜日に片づけて帰るという流れになっています。「協同性は、自分で考え行動していくなかで自然と育まれると思います。2歳ぐらいになると、お友だちと一緒に何かをしようという行動が見えてきます」と荻原副園長。



荻原尚子副園長兼
主幹教諭

園では外部講師による音楽教室も実施しています。ピアノに合わせてリズムダンスから音楽に親しみ、2歳と3歳は打楽器、4歳はベル、5歳はピアノを担当し、合奏します。合奏がうまくいくためには、みんなが力を合わせなくてはならないので、「言葉による伝え合い」が自然と身につきます。子ども同士が互いに伝え合うことは、どのような活動の場面でも大切にしているそうです。

【カテゴリーI】「子どもの育ちを保障する」

④ 保育士等の資質向上に努め、質の高い保育を展開します。 ※

こども環境管理士の資格を取得し 近隣の里山で自然体験活動

7年前、自然が好きな保育教諭の提案で、自然体験活動を



クリスマス会のサンタさんは園長



たけたろうの森の池に亀がいたよ (3歳児)



上左・下 落ち葉いっぱいのたけたろうの森で遊ぶ (5歳児)

実践できる保育環境づくりのエキスパート「こども環境管理士」の資格を副園長(1級)と保育教諭2名(2級)が取得しました。(公財)日本生態系協会が認可する民間資格です。

自然体験活動を行っているのは、園から歩いて5分ほどの里山です。うっ蒼とした竹林があり、ナラ、ブナ、クリなどの木も生えている小高い丘で、市の土地になっています。春にはスマシ、タンポポ、シロツメグサなど自生する花々が咲き、秋には落ち葉の山になってどんぐりや松ぼっくりがたくさん落ちるこの里山は「たけたろうの森」と呼ばれています。ある日ひとりの園児が「たけたろうがいた～」と叫び、ほかの子ども「見たことあるで!」と次々に反応し、この名前になりました。たけたろうの森へ行くと、ゴミ拾いから始まります。子どもたちは吸殻やペットボトルなどのゴミを「誰が捨てたんや!」と言葉にしながらいります。ゴミ拾いを通して、ここにすむ植物や生き物を思いやる気持ちが育まれています。自然体験活動では、春には花を摘んだり図鑑で花の名前を調べたり、秋には落ち葉の中に寝転んだり木の実や藤のつるでリースを作ったりなど、自然と一体となって遊びます。異年齢で



生活発表会でおたまじゃくしの劇を発表 (5歳児)



園長と一緒に秋の遠足 (2歳児)



自然保育の集大成として天下台山へ遠足登山 (5歳児)

行くことも多いのですが、高低差があるため年上の子が年下の子の面倒を見るかたちになります。年上の子は年下の子を気遣い、年下の子は年上の子を尊敬する心が生まれました。

「この活動で得たものはたくさんありますが、一番大きかったのは地域の方とよい関係が築けるようになったことです。実はこの場所に園舎が建ったとき、反対する方も多かったのですが、住宅街を通過して里山へ行く時子どもたちが出会った方に『おはよう』と声かけを繰り返しているうち、『おはよう』と返してくれるようになり、今では『この時期は竹林に蛇が出るからやめたほうがええよ』などのアドバイスもいただけるようになりました」と荻原副園長。

渡邊園長は、「子どもを第一に考え、保育の質の向上にこだわりながら、地域で信頼される園、選ばれる園をめざしていきたい」と抱負を述べられました。

今回お伺いしたのは

社会福祉法人後楽園 認定こども園どんぐりの家
(兵庫県相生市)

■施設基礎データ (令和2年10月現在)

定員: 111名 (現員108名)
0歳8名、1歳14名、2歳14名、3歳27名、4歳28名、5歳17名
職員: 23名
園長1名、副園長兼主幹教諭1名、主幹教諭1名、リーダー保育教諭6名、保育教諭10名、管理栄養士2名、栄養士1名、事務員1名
事業: 延長保育、一時保育、障害児保育



※本文中の「カテゴリー」および丸文字は、「全保協の将来ビジョン」に基づき、関連のある項目を記載しています。「全保協の将来ビジョン」は全保協ホームページでご覧いただけます。